

目的 農民服飾の名称は、それぞれその土地の自然発生的なものと、何かの要因によっての分布があるものとの二つが考えられる。そこで昨年から分布の在り方についての発表を行うことにした。そこで指摘を受けたのはことに婚姻の場合の「習慣」の扱いについてである。今年は婚姻の問題を取り上げて、名称分布の要因とすることの扱いについて検討することとした。

方法 各地に見られる婚姻習俗や衣服と、公武・町方などに見られた言わば標準的婚姻習俗や衣服とを比較検討し、その持つ意味を探った。資料としては各地緊急調査、本学の民俗調査、聞き取り、古文献その他を使用した。

結果 こうした民俗的な行為の場合、標準的なものが先か、或いは各地の伝承が古いかは断ずることが出来ないし、その変化の時期も明らかなもの不明なものなど様々だが、婚姻の行事には大きく見ると二つの目的が考えられる。一つは子孫繁栄・作物豊饒であり、もう一つは集団或いは一族一家への認知であって、その過程に、或いは持ち物の承認、或いは花婿の甲斐性などという心の問題が入ってくると思われる。各種の行為の根底に過去の目的がたどれば、それを類型化することによって仕事着名称分布の要因とする事は可と考えるに至った。